

脳の病気の中で偏差値が最も高いALS（筋萎縮性側索硬化症）は「神経のがん」とも言われる難病だ。

聖マリアンナ医科大学病院 神経内科教授・長谷川泰弘 医師が説明する。「重篤な筋力萎縮と筋力の

低下をきたす神経性疾患で、進行が早い。半数は、発症後3年から5年で呼吸筋麻痺により死亡しています。ほとんどん手足が動かなくなり、意識はあっても全く体を動かすことも話すこともできなくなる。やがて呼吸もできなくなり、亡くなってしまう。人工呼吸器で、ある程度の延命は可能ですが、原因も不明で、現在はまだ治療法が確立されていないのです」

この時期、風邪だと思っ て見過ごされることが多いが、危険な脳の病気がある。「風邪の菌が何かのはずみで脳の中の髄膜に入り込み、炎症を起こす髄膜炎です。発症すると、脳のあらゆるところが破壊されて、意識障害や全身けいれん、

言葉が話せなくなるといった症状を起こす。命を落とすこともあります。病院へ行つて風邪薬を飲んで、38℃以上の熱と嘔吐が3日以上続いたら危険のサインです。発症から1週間何もしなければ、半数の人が命の危険にさらされます」(くどうちあき脳神経外科院長・工藤千秋医師)

## 酔って頭をぶつけた1カ月後に

まう。そのため、急性僧帽弁閉鎖不全症などを起こしてしまふこともあるのです」

どの勝負で、早く治療を開始できれば助かる可能性が高くなるが、くも膜下出血では、たとえすぐに病院に運ばれたとしても、発作を起こした時点で3分の1が死亡するからだ。

年間10万人あたり数人が発症する。ALSとして難病認定されている患者は、現時点で8285人いるという。

痛みはすぐに治まっても、脳の硬膜の下にじわじわ出血が起こり、血の塊ができることがあるのだ。「打ってから1〜2カ月後が要注意です。歩くとき左右どちらかに寄つてしまふ、ろれつが回らない、頭痛がする、男性の場合は小

## その他の病気の偏差値

